

鳥取城跡の石垣修理

鳥取のサグラダ・ファミリア

文化庁記念物保護施策百周年記念・国史跡鳥取城跡石垣修理工事六十周年記念

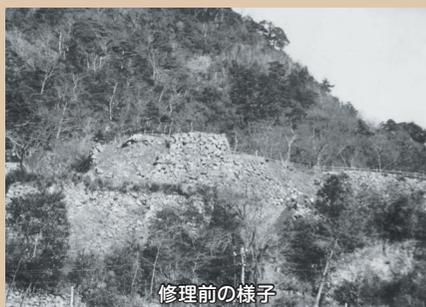
鳥取城の石垣は、戦国時代の終わり頃から、江戸時代を通じて段階的に整備されたものです。これらの石垣は、城が本来の役割を終えた明治時代以降も良好に残っていました。昭和十八年（一九四三）の鳥取大地震によって崩落十六ヶ所、半壊八ヶ所に及び大きな損傷を受けました。鳥取市では、昭和三十三年（一九五七）の鳥取城跡の国史跡指定を契機として、昭和三十四年より地震で被災した石垣の修理に取り組んでいます。しかし、半世紀以上の時を経た現在も、その修理は継続中です。この経緯から、着工後二世紀を経ても建築を続ける、スペインの世界遺産・サグラダ・ファミリアになぞらえ、鳥取城跡は、「鳥取のサグラダ・ファミリア」と呼ばれています。

国内唯一の球面石垣・天球丸の巻石垣

二ノ丸・三階櫓周辺石垣 No.①

二ノ丸三階櫓周辺の石垣は、元和7年(1621)頃までに池田光政によって創建されと考えられ、享保13年(1728)に修理されたものです。

鳥取城跡において文化財石垣として初めての修理が行われ、当時は破損の著しい角石の大部分が取り替えられ、安定した構造体として修理されました。一方、当時他城郭では、ほぼ残されなかった工事写真が国内最多規模で残されており、全工程が江戸時代の工法そのもので、人力によって修理されていたことがわかります。



修理前の様子



「かくらさん」による解体



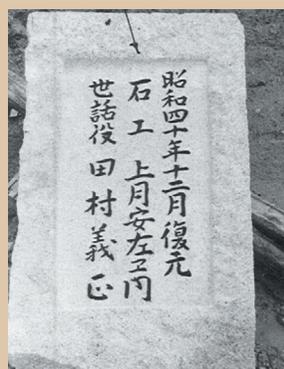
「石吊り」による運搬



角石の加工



角石の設置



石工棟梁は上月保左工門(現・鳥取県八頭町船岡)が務め、三階櫓入口階段左側天端角石裏に銘が刻まれています。

二ノ丸・走櫓周辺石垣 No.⑨

二ノ丸走櫓周辺は、元和7年(1621)頃までに池田光政によって創建されたと考えられます。昭和40年代以降、人力から重機による修理に変化していきますが、解体する石垣を写真測量によって記録保存する試みが日本で初めて実施されるなど、文化財的調査を重視する取り組みが始まりました。また、現在の二ノ丸は、もともと高さ3.2m程度の石垣の前面に犬走りを設けて、高さ約10mの石垣を築き足したことが判明しました(写真①)。さらに、石垣面に見られる角部は、調査によって外面に直交する石垣が続かないことが判明し、創建時の作業工程上の区画を示すものと想定されています(写真②)。なお、三ノ丸側の犬走りを構成する石垣石からは石垣内部側で刻印が見つかりました。創建時、石材を現地調達した鳥取城では石材に刻印が施されること自体が珍しいことから、修理時には、刻印面を外側に向けて積み直されています(写真③)。



写真①



写真②



写真③

天球丸・北側石垣 No.13

平成に入ると、修理に伴って石垣内部の発掘調査が実施されるようになり、鳥取城でも全国に先駆けた取り組みが始まります。天球丸の城下側に大きく張り出した石垣は、もともと屈折ピラミッドのような様相を呈していましたが(写真④)、屈折部分で石垣の継ぎ足しが判明しました。また、天球丸の中央部地下から、屈折部分の高さを底面とする石段(写真⑤)も見つかり、少なくとも天球丸北側は元来2段に区画されていたこともわかりました。なお、発掘調査成果や、絵図などの検討から、現存する天球丸の姿は、正保元年(1644)までの池田光仲の時代に整備されたと考えられています。



天球丸・巻石垣 No.19

文化4年(1807)頃に背後の石垣崩落防止のために築かれた補強石垣で、平成23年度(2011)に復元完成しました。それまでの文化財の石垣修理は、創建時の姿に復することが一般的でした。しかし、鳥取城跡では、江戸時代の補強による石垣修理は、その当時の石垣保全の在り方を示す大切な事象であるという認識のもと積極的に再現し、我が国の石垣修理の在り方に一石を投じました。



天球丸・腰石垣 No.20

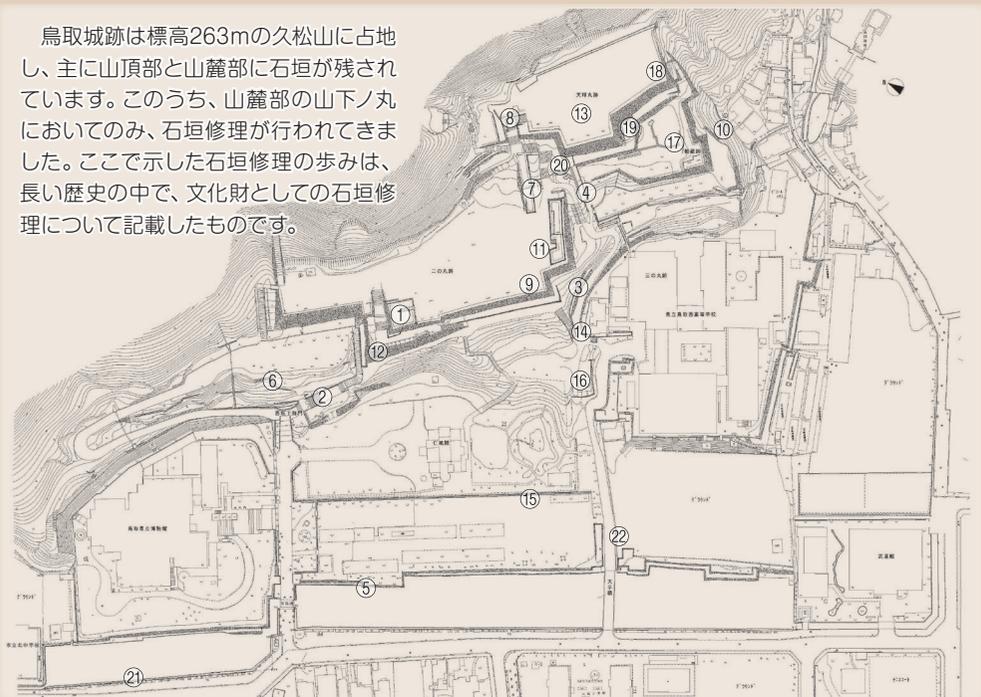
美術工芸品の文化財修理が修理前後の見分けがつかないほど高度な修理であるのと同様に、平成25年度以降、鳥取城の石垣修理も、修理前後が分別付かない修理を目指しています。この修理手法は「石が戻りたいところに戻す修理」と称され、極めて高度なものです。また、石垣内部の栗石も、現在は、職人が一石ずつ石の形状や大きさを見極めて丁寧に組むように配石しながら締固めを行っており、徹底した伝統工法により石垣全体の安定性を高めています(写真⑥)。



鳥取城跡の石垣修理の歩み

No.	修理箇所(施工年度)	No.	修理箇所(施工年度)
①	二ノ丸三階櫓周辺石垣(昭和34~40年度)	⑫	二ノ丸三階櫓下石垣(昭和63~平成3年度)
②	西坂下御門周辺石垣(昭和42年度)	⑬	天球丸北側石垣(平成元~8年度)
③	菱櫓下周辺石垣(昭和43年度)	⑭	南坂下御門北階段脇石垣(平成2年度)
④	坂下御門周辺石垣(昭和45~46年度)	⑮	扇邸石垣(平成9年度)
⑤	内堀石垣(昭和47~49、51年度)	⑯	太鼓御門北側石垣(平成10・11年度)
⑥	西坂下御門上石垣(昭和51年度)	⑰	楯蔵周辺石垣(平成12~15年度)
⑦	二ノ丸表御門北側石垣(昭和53年度)	⑱	天球丸南側石垣(平成16~20年度)
⑧	天球丸風呂屋御門石垣(昭和54年度)	⑲	天球丸巻石垣(平成22・23年度)
⑨	二ノ丸走櫓周辺石垣(昭和54~57年度)	⑳	天球丸腰石垣(平成25~27年度)
⑩	楯蔵下段石垣(昭和56・57年度)	㉑	内堀石垣(平成28年度)
⑪	二ノ丸菱櫓周辺石垣(昭和58~62年度)	㉒	中ノ御門周辺石垣(平成29~令和4年度予定)

鳥取城跡は標高263mの久松山に占地し、主に山頂部と山麓部に石垣が残されています。このうち、山麓部の山下ノ丸においてのみ、石垣修理が行われてきました。ここで示した石垣修理の歩みは、長い歴史の中で、文化財としての石垣修理について記載したものです。



鳥取市教育委員会事務局文化財課 鳥取城整備推進係

〒680-8571 鳥取市幸町71番地

電話 0857-30-8422 FAX 0857-20-3954

e-mail kyo-bunka@city.tottori.lg.jp

問い合わせ

2020年(令和2)2月12日発行